

心臓血管センター
湖東記念病院

ごあいさつ

大暑の候、皆様におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

東日本大震災では多くの方々がお亡くなりになり、また被災地の多くの方々が厳しい生活環境のなかで復興に向けて懸命な努力をされておられます。我々も国民の一人として出来る限りの支援をするのは当然であります。心血管インターベンションを専門とする組織全体として、またひとりの医師として、どのように振る舞い、貢献できるかを深く考えさせられました。

我々は日々、緊張を強いられる労働環境の中にはありますが、通常通りの医療ができ、そして提供できることに對し、しみじみと有難く思います。

さて、当院循環器科も開設以来11年目を迎え、5月には心カテのプロである山路医師が赴任し、医師スタッフも8名となりました。2つのカテ室は毎日フル稼働しております。去る5月29日には、滋賀県初の循環器疾患をテーマとした大規模市民公開講座を開催することが出来ました。約430名の方々

初めまして

5月より湖東記念病院循環器科に赴任となりました山路正之と申します。

大学病院で2年研修後、静岡の岡村記念病院で2年半心臓カテーテル検査・治療を学びました。その後、2年半市立長浜病院で、内科全般とカテーテル治療に従事し、3年間滋賀医大の方で大学院生として心不全研究を行ってきました。

節目の10年を終え、これまでの経験を生かしたいと考え、循環器に力を入れている湖東記念病院を希望した次第です。



副院長

馬淵 博

にお越し頂き、会場のほとんどの方が熱心にメモされる姿がとても印象的でした。

引き続きあらゆる循環器疾患のご相談に迅速かつ丁寧に対応させて頂き、最善の結果が出せるよう、スタッフ一同、最大限の努力を続けてまいります。

何卒宜しくお願い申し上げます。暑さ厳しき折り、皆様のご健康をお祈りいたします。



ドクター

山路 正之

虚血性心疾患・心不全が主な専門分野です。

臨床のみならず、湖東記念病院でのカテーテル治療のデータをまとめ、先生方に発信していければと考えています。

今後とも宜しく願いいたします。

第2世代の薬剤 溶出性ステントへの期待



心臓血管センター長
武田 輝規

御承知の通り、近年、冠動脈インターベンション治療(PCI)は狭心症への標準的の血行再建法として確立されております。ただ治療後の再狭窄率はバルーン拡張のみで約50%もあります。1990年代にステントが登場し再狭窄率は約30%にまで低下させることができましたが、それでも難治性の再狭窄により再治療を繰り返す症例も決して稀ではありませんでした。

永年PCIのアキレス腱とされてきた再狭窄に関しては、2004年から使用可能となった薬剤溶出性ステント(DES)によってかなりの改善を得ました。DESは1年間での再狭窄率を10%以下にまで低下させることができましたのです。ただしDES症例が増えるにつれて遅発性ステント血栓症という新たな問題がクローズアップされてきたのです。これはステント表面に塗られている薬剤やポリマーにより新生内膜増殖が強力に抑制された結果、長期に渡ってステント金属が血管に露出していたり、ステント周囲に慢性炎症やプラーク壊死が生じて発症すると考えられています。

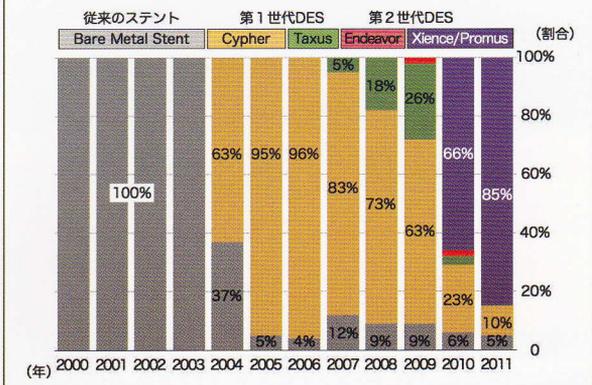
DESでは留置後1年以上経過した症例においてもステント血栓症の報告があり、年率0.3%の頻度で発症するとのデータが出ています。そのためDES留置を行った症例では2種類の抗血小板剤を可能な限り長期に継続することが推奨されています。しかし昨年より日本でも使用可能となった

第2世代DESである Xience (Promus) ステントは、海外での有効性、安全性のデータが数多く存在し、再狭窄率のさらなる低下だけでなく、ステント部の再内皮化によるステント血栓症の減少などが期待されています。当院においても今まで主役であったCypherステント(第1世代DES)からこのステントへほぼ移行しております。

当院での第2世代DESの初期成績(1年)をみますと、まだフォロー数は少ないものの再治療率は3.2%と抜群に良好であり、この1.5年間にはステント血栓症は1例もございませんでした。もう少したくさん症例を長期にフォローしていかないと、断定的なことは言えませんが、有効性、安全性ともに確実に進化しているものと思われる、今後の抗血小板療法にも変化が現れるかもしれません。ステント留置後の外科的または内視鏡的手術の際にはどうぞ当院へ御相談下さい。使用したステントによってはこれまでとは違ったお話しができるかもしれません。今後も我々はより確実に安全な治療のために、新しいデバイスや情報を柔軟に取り入れていきたいと考えています。

今後とも何卒宜しくお願いいたします。

【当院での冠動脈ステント使用状況】



【当院でのステント留置後の再治療率】

	従来のステント	薬剤溶出性ステント	
		第1世代 (Cypher)	第2世代 (Xience)
使用した時期	主に緊急時に使用	2005~2009年	2010年~
ステント留置した病変数	259	2212	771
カテフォローした病変数	118	1013	94
留置1年後の再治療率	19.5%	8.6%	3.2%

■循環器科外来担当表

		月	火	水	木	金	土
循環器科	午前	坂口	馬淵	村上院長 〈一般内科・循環器科〉	前田	村上院長 〈一般内科・循環器科〉	非常勤
		武田	只野	山路	前中	武田	
	午後	前田		坂口		馬淵	
不整脈科	午前			静田 〈2週〉予約制			静田 〈4週〉予約制

〈午前診〉受付 7:30~11:30 診察 9:00~12:00

〈午後診〉受付 13:00~15:00 診察 13:30~15:30

※月2回 京都大学医学部附属病院 不整脈科 静田先生が来院されます。

※ペースメーカー外来 毎月第3金曜日 午後〈予約制〉

H23.6.1改訂

■循環器科外来について

平素は格別のご高配を賜り、又患者様をご紹介いただき厚く御礼申し上げます。さて、当院の循環器科外来についてご紹介させていただきます。循環器科外来につきましては村上(院長)・非常勤医師を除きまして、原則予約制となりますが、先生方よりご連絡をいただいた際には、その医師が責任をもって診察させていただきます。

地域医療機関との連携と患者サービスの向上に努めて参りますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。

ご質問等がございましたら、お気軽に地域連携室までお問い合わせください。

地域連携室



■ご案内

○電車でお越しの方

JR能登川駅よりタクシーで20分、バスで25分

(市ヶ原〔角能線〕行き・湖東記念病院前下車)

近江鉄道八日市駅よりタクシーで20分、バスで25分

(僧坊〔湖東線〕行き・湖東記念病院前下車)

○車でお越しの方

名神高速道路 八日市インターより15分

駐車場：150台

料金：無料

※駐車場内での事故、盗難、破損等につきましては病院側では一切責任を負いませんのでご了承ください。

心臓血管センター 湖東記念病院

地域連携室 TEL. 0749-45-4512
FAX. 0749-45-3335

ホームページアドレス
URL <http://www.subarukai.jp/>

〒527-0134 滋賀県東近江市平松町2番地1
TEL. 0749-45-5000 FAX. 0749-45-5001